

大同病院総合診療科専門研修プログラム（ローテーション概要）

※ 実際の研修計画は、年度ごとに各専攻医の研修状況を判断し、研修分野、研修施設単位で研修時期、研修順を考慮する。

定員：2人/年

月度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 専攻医	内科研修 (12か月)											
	＜ 基幹施設 大同病院 と その関連施設 ＞ <ul style="list-style-type: none"> 内科ローテーション研修 外来診療：総合内科6か月、内科専門診療7分野（消化器、呼吸器、循環器、神経、糖尿病・内分泌、腎・膠原病、血液）を一部並行して6か月、担当または当番制の外来診療を行う 入院診療（必要40症例と提出病歴要約10件、大同内科研修システム「内科は一つ」に属し、必要症例を選択し、主担当医として診療を行う） 退院調整に積極的に携わる（介護保険制度、看とり、老人保健施設、特別養護老人施設などの現状把握） 入院患者が外科、整形外科、歯科口腔外科治療が必要になったら専門科の担当医と共に診療に参加する 認知症疾患医療チーム、医療安全チーム、嚥下機能評価チーム、院内感染制御チーム、抗生剤適正使用監視チーム、緩和医療チームに参加する 担当患者の病理検体や喀痰などの生体標本は病理医や検査技師と共に検討する 当直業務 											
2 専攻医	小児科研修 (3か月) ＜ 基幹施設 大同病院 ＞			精神科研修 (1か月) ＜ 連携施設： あいせい 紀年病院 ＞		総合診療Ⅱ研修 (2か月) ＜ 連携施設： 名古屋市立大学病院 ＞		総合診療Ⅱ研修 (6か月) ＜ 基幹施設 大同病院 ＞				
	<ul style="list-style-type: none"> 外来診療 入院病棟診療（NICUを含む） 小児在宅診療 学童検診、乳幼児健診 予防接種業務 小児虐待対策委員 当直業務 			<ul style="list-style-type: none"> 応急入院以外の精神保健福祉法上の入院病棟診療 精神科救急 精神科医療連携 施設の往診 		<ul style="list-style-type: none"> 総合診療部門研修 【名古屋市立大学大学院地域医療教育学】地域医療の専門教育を週1回、2～3か月研修する（医学生、看護学生の指導も行う） 		<ul style="list-style-type: none"> 総合内科（総合診療部門）として、救急外来の受診患者について、疾病・疾患の内容にかかわらず診療にあたり、その中で必要とされる専門診療分野の知識・技術は外科系（外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科）診療を含め各分野指導医から学び、自ら行う診療力や連携診療のマネジメント力を養成する 当直業務 				
3 専攻医	救急科研修 (各6か月) ＜ 基幹施設 大同病院 ＞						総合診療Ⅰ研修 (6か月) ＜ 連携施設： 知多厚生病院・附属篠島診療所、豊田地域医療センター ＞					
	<ul style="list-style-type: none"> ER業務 ICU業務 当直業務 						<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病棟診療、療養病棟診療 在宅医療（在宅医療を提供する医師が少ない周辺地域を重点的に行う） 健康増進活動（各種健診、特定保健指導） 初期研修医の指導 					
4 専攻医	総合診療Ⅰ研修 (12か月) ＜ 連携施設： 知多厚生病院・附属篠島診療所、豊田地域医療センター、南高山地域医療センター ＞											
	<ul style="list-style-type: none"> へき地、過疎地域医療研修 											